

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和6年10月30日（水曜日）			開会	11:11	会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	12:45				
委員の出欠	1 番	市川 聖母	欠席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席			
委員外の出席	議長	西原 浩					合計	1名	
事務局職員	局長	干場 富夫		主幹	木幡 友哉		合計	2名	
傍聴者数	一般	0名		報道関係者	0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過
委員長 12番 松原	11:11 開会 出席委員7名、欠席委員1名、委員外1名、会期1日 開会挨拶
委員長 12番 松原	議事1 常任委員会の委員会数や名称、所管事項等に係る事項について ・本日は、浦幌町及び栗山町の行政視察を行った感想について取りまとめを行いたい。 併せて、視察内容を踏まえた各委員の3常任委員会の構成に関する意見及び広報・広聴常任委員会の構成に関する意見もいただきたい。
委員 3番 高橋	・浦幌町のなり手不足に係る対応を聞き、町民に働きかけ、積極的に広聴活動を行って議会側から町に飛び出していないといけないと感じた。 栗山町について、広報・広聴を小委員会に分けることについては、広聴活動を広げたいと感じていたことから、小委員会ごとに活動するのも有効であると感じた。
委員 11番 今西	・いずれの町も、1期、2期の若い世代が議会運営委員会の構成メンバーに入っていることが大きいと感じた。積極的に働きかけをした結果かと思っている。 栗山町においては、私は特に自治会との関わりが重要と考えており、そのことについて意見をもらったが、報告会等を地域に出向いて行う上では自治会との協力が大きなウエイトを占めていることが分かり、我々としても自治会との協力体制の強化をこれまで以上にやっていく必要があると感じた。
委員 2番 吉田	浦幌町においては、議会側で用意した場所ではなく、町で行われるイベントや集まりなどに、人数の多い少ないは関係なく出向き、そこに参加している人と議会との接点を作るといった活動が、議会を理解してもらい、次世代の議員のなり手を掘り出すことに繋がっていると感じた。 委員会構成については、これまでも話してきたとおり、3常任委員会においては最低でも今の人数よりも多い人員で構成すべきという点から、2委員会に統合することが望ましいと思っていたし、広報・広聴についても、全員が広報・広聴に関わった中で、区分けしてやっていくことも充実させる一つの手段だと思う。 ・1番心に残ったのは、栗山町の副議長の「手数は多いほうがいい。」という言葉で、平時にはあまり効果を感じられない会議や活動であっても有事の際には町民の声が大きくなり、その会議や活動が有効に機能することもあるというのはそのとおりだと感じた。 両町とも、広報・広聴活動に複数の手段があって、いろんな方向から町民の声を聴く機会を設けている。例えば、各自治会と協力して報告会を開

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

くであるとか、会議時間を変えて行うなど、何かを解決するためにはこれもやったほうがいい、これは改善したほうがいいといったようにフレキシブルに対応してきたことが、若手議員のなり手に繋がっているのではないかと感じた。

浦幌町のカフェDE議会であるとか、栗山町の議員の学校であるとか、それぞれの町でできることを試している。別海町も今やっていないことに着手してみるのもいいことだと思った。

委員会構成については、3常任委員会を2常任委員会に統合して増員する案、広報・広聴は全員所属で小委員会制を設ける案がいいのではないかと思う。

委員 9番 小椋

・全体を通じて、広報と広聴は議員としての責務であるという栗山町の副議長の言葉に大きく納得できた部分がある。

広報というのは、議員としての情報を公開し、住民との情報共有を図らなければならないという責務を果たすためにあること、そして、今回の視察で思ったのが、議員のなり手不足対策というのは、広聴活動なのではないかということ。

なぜかというと、広聴というのは町民の声を聴くことではあるが、町民が声を出さなければならない。そのためには議会に関心を持ってもらわなければならない。

関心を持ってもらえれば、意見が出て声が聴ける。広聴も成り立つし、議会に対する意見や理解が進めばなり手も自然と生まれるだろうということがとても実感できた。

議会への関心を高めるという側面から、なり手不足対策は、広聴の役割であると個人的に思った。

浦幌町は、定員割れをきっかけに対策を行い、町外から若い立候補者が出るなど、メディアに取り上げられて町民の注目が集まり、それを機に今ではカフェDE会議などフレンドリーな関心の高め方をしており、その流れから地域おこし協力隊が町民の1人として議会にも関わってきているといったやり方は、非常に柔らかく、町民も関心を持ちやすく、参考になる。

栗山町は、システムが出来上がっているというか、昔から議会改革をしっかりしていて、議会に関心を寄せる町民が一定数いるのだろうと感じた。

両町の手法のいいところを取り入れて、別海町スタイルを作っていけたらいい形になると思う。

また、栗山町の広報のスタンスというのは、今後の委員会を検討する際に必要になると思うので取り上げると、傍聴に入れる会議、つまり公開を原則としている会議は全てインターネットでも公開するというのは町民にとっても分かりやすいと思う。今後関心を持ってもらうためにも、町民に対しては、シンプルに分かりやすく伝えることが非常に大事だと思う。

よって、公開するものは全て公開するといったやり方は通りがいいと思うが、ハレーションが起きる内容でもあることから、今後、このことを広報として検討していく上ではボリュームがある。

以上のことを踏まえると、広報・広聴常任委員会においては、議会だよりの発行だけでもかなりの業務量となっているところに、広聴の充実とインターネット中継やホームページの整理、これらも積み残しとなっており、着手しなければならないことを考えると、広報・広聴の今後の活動内容にはかなりボリュームがあること、また、広報・広聴活動は、全ての議員が町民に対して果たさなければならない責務であるという観点からも、全員参

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

加がいい。

ただし、16人で進めましょうというのは効率的ではないので、必要に応じて小委員会を設けて、場合によっては小委員会の中でもさらに係を決めて業務に当たるといったことも含めて、全員参加が望ましいと考える。

また、3常任委員会については、広報・広聴常任委員会に全員が参加するとなった場合、重複して所属するとさすがに多いと考えるので、2委員会に統合し、いずれかに所属する形が望ましいと考える。

最後に、栗山町で政務活動費についての話も出たので少し触れると、議員の資質向上を図り、活動の内容を明らかにできるという意味でも、逆に議員個々の活動の有無がはっきりすることで、各議員にプレッシャーをかけられる部分もあり、議員としての立場を再確認できるという意味でも、あったほうがいいのではないかと感じたところ。

・両町共に広聴活動に力を入れており、それが結果として、なり手不足の解決や、町民に議会への関心を持ってもらうことに繋がっているのだと思った。

浦幌町からは、早い時期から町民に問題提起をし、なり手不足というのは町民にとっての問題であると、町民自身にそう理解してもらえたことが大きな点だと思う。

栗山町も、議会モニター制度を活用しており、別海町でもせっかくモニター制度があるのだから、もっと活用できるように改善していかなければならないと感じた。

また、いろいろな取組をして、参加者が減ってきたり、停滞していると思う面があったとしても、続けることが大事で、いざという時に効力を発揮するものだと思うので、我々も参考とする必要がある。

議会に関心を持ってもらう手段の一つとして、インターネット配信があると思うが、栗山町では、委員会も編集せず全て流すといったスタンスは、町民との信頼関係を作りだしており大変素晴らしいと思う。

議会モニターが17人と非常に多く、自主的・自発的に参加してくれているとのことで、もう少し秘訣などを聞いたかったが、町民の意識レベルが高いのであろうと思う。

栗山町は、通年議会や文書質問等、常に次の議会改革へと歩みを止めずに進んでいる点が非常に勉強になった。

今回の視察を踏まえて、委員会構成や広報・広聴の在り方については小椋委員とほぼ同じなので、繰り返しはしないが、広報・広聴入れて3常任委員会、結論としてはそれしかないと思う。

最後の感想になるが、栗山町の副議長が全委員会に所属していることについて、大変素晴らしいとは思いますが、極めて多忙であり、あの方だからできているのであって、おそらく別の方では代われないだろうと思ったので、我々が求める方向としては、若い世代、子育て世代でもその役を担える体制かと思う。

・浦幌町について、1点目、議会の役割として、議会活動の年間スケジュールや議員の役務をしっかりと町民に理解してもらう努力が必要と感じた。

皆が言うように、広報・広聴の重要性を再認識したところ。

2点目、若手議員の選出の土台には、報酬額や兼業の場合における雇用主の理解が必要不可欠であり、町全体で取り組む必要性を感じた。

兼業で雇用されている場合、年間100日近く休暇が必要になる。

栗山町について、広報・広聴については確かに小委員会でやっているの

委員 13番 中村

副委員長 8番 田村

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

は分かったが、広報については原案を事務局が作っていたり、議会報告会も全員ではなく、4、5人ずつ会場を分けて行っているなど、本町とは状況が違う。広報・広聴を全員でやるのはどうなのかと思っていることと、小委員会がすごくいいなという感じも受けなかったので、現状の7名程度で十分かと思ったところ。

議会報告会については、町内会との共催を原則としており、班編成して4会場を分担していることは良かった。本町でも参考としてもいいと思う。

政務活動費については、第2の議員報酬ではなく、議員の資質向上に繋がることが前提であるとのことで、専門的知識を有する者の監査等、使途の透明性の確保がされている。町民の負託に応えるため、議員の資質向上は必要不可欠であることから、本町においてもぜひ取り入れるべきだと思った。

議員の学校についても、やる気になればできると思うし、なり手対策としては有効である。

ただし、議員が講師になって開催するとして、結果的にはその候補者と選挙になることから、町のためにやるといった考えに立って、大きな気持ちで取り組まないと進まないと感じた。

委員会構成については、3常任委員会については、2委員会に統合して7名程度を確保し、広報・広聴については、全員で所属するよりも、議運と合わせて半数ずつ、7名程度の所属でバランスが取れるのではないかという気はしている。

そうすると、まだ早いですが、必然的に定数は14～15名になるかと思う。

・今、出席委員からそれぞれ行政視察の感想と、それを踏まえた委員会構成について意見を伺ったところだが、感じたことは皆おおむね同じだと思う。

特に広報・広聴の役割は非常に大きいと感じた。議会の活性化やなり手不足にいい影響を与えることになると思う。

本町でも委員会のインターネット中継は行われていないが、そのことも広報・広聴の中で着手しなければならないし、課題は多い。

今出された意見を事務局でまとめられるか。

・承知した。

市川委員が本日欠席であるため、別途意見を聞き取りして、全員の意見をもってまとめたい。

本日出された意見としては、3常任委員会に重複所属は全員が難しいだろうという認識であること、つまり、所管を持つ常任委員会は2つに統合する方向で進めるということ、次に、なり手不足対策等、今後は広報・広聴活動に力を入れる必要があり、また、議員の立場、責務として、町民の声を聴き、拾い上げて町に投げかけ、それを還元することが最も重要な仕事であり、もって、町民の関心を高めるといったことが重要となることから、副委員長においては、構成についての考えに相違はあったものの、広報・広聴活動が重要であるという考えの根底は同じであることを踏まえ、多数意見を取り入れて、広報・広聴には全員が参加し、その中で分担する方法が取れるのであれば、それが望ましいというまとめ方でよろしいか。

・広報・広聴の体制については異論もあるため、もう少し議論をする必要があるということも明記してはどうか。

・注釈を入れたいと思ったのが、委員会というと所管を持っているものというイメージが強く、3常任委員会を指して、所管を持たない広報・広聴

委員長 12番 松原

事務局 主幹 木幡

委員 13番 中村

委員 9番 小椋

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

	<p>常任委員会は別扱いされている傾向にあるが、今後は対行政に対する議会の役割を担う各常任委員会、対住民とのつながりの強化を図る広報・広聴常任委員会、議会内部の業務に当たる議会運営委員会といったように、対象が変わるだけで、全ての委員会は並列であり、議会としてどれも欠かすことができない役割を担っているという位置付けをしたい。</p> <p>特に広報・広聴については、対住民向けの議会としての機能であるということを確認したい。</p> <p>委員会構成については、副委員長は少し意見が違ったが、広報・広聴が重要であるという方向性は一緒ということで認識したがよろしいか。</p>
副委員長 8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> ・問題ない。 <p>栗山町のやり方が、そのまま本町に当てはまるかを考えた場合、同じ体制を取ってまでやる必要はないのではないかと思ったところだが、今後、対住民向けに新たな取組を行っていくということで、そこに繋がっていくというのであれば私もいいと思う。</p> <p>小委員会に分けて、専門的にやるということは大賛成だし、栗山町の体制や業務内容は馴染まないと考えるだけで、本町なりの枠組を作っていければ問題ないので、相反する体制だとは考えていない。</p>
委員長 12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・報告の関係で、ほかにあるか。
委員 一同	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局に確認だが、栗山町から政務活動費関係の例規を提供してもらえることになっていたと思うが、届いているか。
事務局 主幹 木幡	<ul style="list-style-type: none"> ・届いていないので改めて確認する。
委員長 12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・政務活動費の話題が出たが、栗山町の考えによると、第2の報酬ではないということ、資質向上のために活動している議員には支給すべきだと受け止めてきたところだが。
委員 11番 今西	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は政務活動費については疑問を持っている。活動調べも行っていることから、その結果を見て、判断材料を揃えてから慎重に議論していく必要があると考える。
委員長 12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・支給対象経費の取決めも慎重に行う必要がある。今後深く議論していきたい。 <p>まずは、委員会の体制についてのまとめだが、所管のある委員会は2つ、広報・広聴には全員が参加、小委員会の分け方については、業務内容等を加味しながら判断していくということでよろしいか。</p> <p>また、これまで議論してきた1委員会7名という前提、これを当てはめると、委員会に議長が加わる場合は14名、加わらない場合は15名と、議員定数が出ることになるが。</p>
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・16名から減らさないという議論を行っていないので、現状は7名程度と含みを持たせておくといいのではないか。
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしておけば全体の考え方を網羅できるのでいいと思う。
委員長 12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・議会運営委員会に関する意見も少し伺っておきたい。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・議会によって色が違う。他の委員会の一つ上にあるイメージだが、そうではない議会もある。 <p>案件を確認し、会議の日程や内容を決める側面と、委員長会議という側面があり、各委員長が所属していることで、決定がスムーズに進むということも考えられるが、委員長である必要がない場合もある。</p> <p>このことから、委員長会議を議運から分ける方法を取れば、委員長である必要はなくなる。</p>

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		<p>ただし、大きく変えるとやりづらい部分も出てくると思うので、委員長会議という側面は残しつつ、議会の運営という部分においては、もう少し幅広い人選を行い、委員長以外の議員が参画するのがいいと考える。</p>
委員	11番 今西	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど小椋委員が言っていた全委員会が並列でそれぞれの役割があるという部分から、議会内部の意思疎通を図るという意味では、委員長で情報共有という側面は残した上で考えていくのがいいと思う。
委員長	12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・議会運営委員会と委員長会議を別にすることになると、どういった人選になると想定しているのか。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長会議を活用できないか。
副委員長	8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長会議は委員会内の会議という位置付けであったと認識しているので、別に規定すればいいのではないか。
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の運営という意味では、幅広い意見があったほうがいいと思うので、委員長のみよりは期数で選ぶ等したほうがいいかと思う。委員長会議という側面が必要であれば、別の会議にする案のほうがしっくりくる。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・今話を聞きながら、委員長会議の必要なケースを考えていたが、おそらく定例会時に意見書をどの委員会で発議するかぐらいで、その時に他の議員がいたら困るということもない。 <p>また、ほかに全体で意見を出し合って決める必要があるような案件は、広報・広聴に関することが多く、広報・広聴常任委員長が入っていないことで各委員長を通じて情報を各委員会に共有するといった流れが必要だったが、広報・広聴常任委員長を議会運営委員会に含めることで解決するので、そうなれば、別に委員長会議を招集する機会はあまりないような気がする。</p>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・栗山町は通年議会というのものもあるが、月1回議会運営委員会を開催しており、その月のスケジュールを決めているのはいいと思った。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・各所の負担を考慮しなければいいとは思いますが。
委員長	12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・4、5年ほど前か時期は定かではないが、かつて正副委員長会議を定例会前に毎回開催するなどの話が出たこともあったが、実現しなかった例がある。
委員長	12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・議会運営委員会の構成メンバーの案はあるか。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・議会運営委員会も他の委員会と並列として考えると、同じく7名程度でいいのではないかと考えている。新体制として考えた場合、議会運営委員会委員長と3常任委員長に加えて、3名程度というのがやりやすいのではないか。
委員長	12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・プラス3名は各委員会の副委員長を想定しているのか。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には、希望者がいいと思う。やる気のある議員がやるということかどうか。他の常任委員会は均等に所属になっているが、議会運営委員会は別になるので。
委員長	12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・副議長はどうか。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には必ずしも入っている必要はないとは思いますが。
委員	13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・副議長は議長の代理なので、議会運営の話をする場に入る必要があると思うが。 <p>また、期数の少ない若い人が入ることに意味があると思う。</p>
副委員長	8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> ・議長の代理という意味で言うのなら、委員外としたほうがいいかという気もする。 <p>ただ、やみくもにやりたい人に任せるといのもどうかと思うので、委員会推薦にするといいと思う。</p>

令和6年第7回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長	12番	松原	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会運営委員会の話はここまでとして、新しい委員会の体制はいつから導入するのがいいか。 ・ 改選前に導入できていたほうがいいと思うので、中間報告や条例改正等が間に合うのであれば、次の委員会再編のタイミング、つまり3月がいいと思う。 ・ 定例会最終日の議案の議決後に委員会の再編成を行う流れになることから、委員会体制の確定と町側との調整がスムーズにいくのであれば、3月定例会で条例改正と新体制導入の同時進行は可能ではある。 ・ 定数は別にして、やれるのであれば先に委員会体制を変えておくのは次に繋がると思う。 ・ 中間報告の予定はいつだったか。 ・ 3月定例会前。所管分けの調整や条例改正がスムーズにいくか、時間との勝負といったところ。 ・ 所管分けについては、議員で議論するより、町職員でもある事務局に案を作ってもらって進めるのがスムーズだと思う。 ・ 調べて資料として用意してもらいたい。 ・ 議会運営委員会における副議長の立ち位置を決める必要があるのでは。 ・ 今日結論を出すということではないが、できるだけ早く決めたい。 ・ 我々委員は話の流れを分かっているが、委員外の議員は突然言われる立場にあるので、事前に各議員の意見を徴取できるような進め方が必要ではないかと思う。また、急ぎすぎて取りこぼしがあってはいけないので、事務手続きは慎重に進めるべきだと思う。 ・ 次の委員会で順次整理していきたい。 ・ ほかに何かあるか。 ・ 特になし。 ・ 次回開催日程について、11月21日10時からとしてよろしいか。 ・ 異議なし。
委員	9番	小椋	
事務局	主幹	木幡	
副委員長	8番	田村	
委員長	12番	松原	
事務局長		干場	
委員	9番	小椋	
委員長	12番	松原	
委員	11番	今西	
委員長	12番	松原	
委員	13番	中村	
委員長	12番	松原	
委員長	12番	松原	
委員		一同	
委員長	12番	松原	
委員		一同	
委員長	12番	松原	
委員長	12番	松原	

閉会挨拶

11:35 開会